

発行者 公益社団法人 関西吟詩文化協会

公認 華洲会 (広報紙)

発行責任者 会長 山口華雋
編集責任者 広報部長 山下心鼓



「華」 第70号 発行:平成30年5月31日

主な記事

- 2面 新役員 華洲会への思いを語る
- 3面 思いを語る 30年度事業方針
- 4面 平成30年度予算・行事日程
- 5面 平成30年度役員
- 6面 楠公さんシンポジウム参加
- 7面 漢詩の効用・漢詩の広場
- 8面 会員の現状

華洲会10年後の未来ビジョン実現

会員増強・指導者養成の強化・青年部の活性化が肝要

華洲会の活動の方針を定める平成30年度総会が4月30日大東市立市民会館で開催。総会冒頭に山口華雋会長は、華洲会10年後の未来は、



華洲会会長 山口華雋

①会員増強②指導者養成の強化③青年部の活性化を引き続き取り組んでいきたいと、会員ひとり一人に呼びかけ、協力を仰いだ。

会員400名割れを阻止

過去5カ年間の会員数推移は、平成26年の49名(一般404名、幼少年45名)が、平成30年では400名(一般362名、幼少年38名)と11%減となった。

会員増強が10年後の華洲会の未来のための最重要課題

だということがはつきりした。

青年部 局や広報部、組織の活性化を計り成果を目指す。



会長挨拶 会長 山口華雋

本年は、華洲会創立53年となり、私たちは故三浦華州先生の遺志を継ぎ、次の時代へと継承してゆかなければなりません。吟界を取り巻く環境は厳しく多くの会で会員減少しています。華洲会においても同様の傾向がみられ、指導者の高齢化により教場や支部が消滅するなどの事象が発生しており、また他の指導者へ継承された例もあります。

第一の課題は会員の増強です。続いて、華洲会を継承するためには、継承者並びに新しい教場を開設してくれる新指導者の養成は、継続的な大変な重要な課題であります。第3の課題は、次の時代を背負ってくれる若い指導者の・青年部員の増強が大きな課題であります。そこで本年度も、指導者の養成のための華洲未来塾を継続すること、青年部の活性化を図るとともに、教室は楽しいものにしていただくことを目的として、吟詠歌謡の研修会を継続してまいります。

これらの功を上げるためには、華洲会のみならず心がひとつにして、前進してまいります。会員ひとりひとりが、情報やの問題点を共有化し、全員で議論を重ね、華洲会の10年後を視野にした取り組みに、会員一丸となって前進いたしましょう。

新役員・華洲会への思いを語る！！

常任相談役
監事



種田紅鞠

この度、

長年努めさ

せて頂きま

した華洲会

副会長を任

期満了によ

り卒業させて頂き、新たに常

任相談役・監事のお役を引き

継ぐ事となりました。

副会長は私には大役でござ

いました。第一線を退いた今

はほっとした感もございます。

思い返してみますと、常に

会の役員としてこれで良いの

だろうか、もっとやるべき事

があるのではないかと思ひ悩

む時もありましたが、今は定

年まで勤めさせて頂き、誇り

に思っております。

今後は微力ながら、少しで

もお役に立てたらと、老体に

鞭うちながら頑張りますので、

どうぞ宜しくお願い致します。

就任し微

力ながら

所掌職務

に傾注い

たしてき

ましたが、

漢詩の教育環境の変化、吟界

の高齢化の中でその活動が十

分に目的達成したとはいえま

せん。

吟詠の目的は藤沢黄坡先生

の巻頭言にもありますように

それぞれの「道」の自得にあ

ると考えます。漢詩を多く朗

詠し「遂に詩中の人となる。

これを同化と言う。吟詩の妙

味ここにあり」とあります。

今回の異動で副会長を拝命

し、広報部担当となりました

が、所期の目的達成に向け少

しでも親しみやすく判りやす

い広報をめざし、新広報部長

ともども吟界の継続発展に寄

与したいと考えております。



東 燁光

この度、

華洲会の

常任理事

を拝命し

て、身の

引き締ま

る思いで

ございます

が、新たな

気持で、吟の普及と華洲会の

発展に少しでもお役に立てる

様努力して参りたいと存じま

す。

どうぞご指導ご鞭撻の程、

宜しくお願い申し上げます。

副会長
会計部長



遠藤尚豪

少子高

齢化・趣

味の多様

化の波は

紛れもな

い

常任理事
教養指導部長



高橋箏瑛

この度、

研修部と

教養部が

新しく教

養指導部

として活

動を行う事となり、部長の大

役を拝命いたしました。

恩師の広瀬華箏先生の亡き

後、孤軍奮闘してまいりまし

た。その様な中、先生方に支

え、導いて頂き続けることが

出来ました。

吟詠に対する技術、知識等

を持ち合わせていない私に出

来る事は僅かですが、精一杯

務めさせて頂きます。

○指導者養成「華洲未来塾」

を開催いたします。

○詩歌吟詠の鑑賞

○本部研修の復講

の予定をしております。

先輩の先生方が築いて来ら

れた、華洲会を次の世代に継

なげて行きたいものです。

常任理事

広報部長



山下心鼓

他にい

くまでも

有能な人

材が居ら

れるの

に！今回

突然の指名に驚いています。

ただ私は信条として「信念誠

実努力継続」を旨として動い

ており働き方は黒子に徹した

いと思っております。従って広

報部と言う場所で、次世代へ

のバトンタッチ(シニアから

ジュニア)が図られる時機と

の思いもあり、その面で竹本

部長から若手頭脳への移行に、

微力ながら協力努力していけ

たらと思っております。華洲会

常任理事

燁吟支部 東 燁光

この度、

華洲会の

常任理事

を拝命し

て、身の

引き締ま

る思いで

ございます

が、新たな

気持で、吟の普及と華洲会の

発展に少しでもお役に立てる

様努力して参りたいと存じま

す。

どうぞご指導ご鞭撻の程、

宜しくお願い申し上げます。

常任理事

ソレイユ支部 中野 亮瑛

この度、

常任理事

に選出し

ていただ

き感謝し

ておりま

す。

吟歴も浅く浅学非才の私に

努められるかどうかわかりま

せんが、先生方にご迷惑をか

けることのないように頑張り

たいと思致します。よろしくご

う

副会長

広報部担当

竹本瑞鼓

広報部の目的は涉外、広報、

教育宣伝活動と華洲会規約に

あるところです。

平成19年度に広報部長に

就任し

指導のほどお願い申し上げます。

発展に寄与したい

事務局 岡 紅志



この度、華洲会の事務局の部長を拝命しました岡紅志です。詩吟

を始めた切っ掛けは、仕事で京都メルパルクの詩吟教室を見学したことです。奥山紅雋先生と山口華雋先生が指導されており、その迫力と美声に感動し、即日入会しました。当時は子供が小さく、仕事との兼ね合いもあり稽古もままなりませんでしたが、その子

たちも今は上が中学生、下も小学三年になり、コンクールなどにも付いて来てくれる様になりました。この子たちに詩吟文化を繋いでいきたいと強く思います。華洲会の発展に寄与出来るよう頑張ります。

事務局員として

事務局

荒川一聡



この度、事務局の一員になりました。荒川一聡

支部高槻分会に所属して下さる支部高槻分会に所属して下さる荒川一聡と申します。

恩師である園部先生に誘われ、詩吟を始めてから三年目に入りました。詩吟のことを何も知らず入会し、詩吟を始めた理由を周囲から聞かれても何となくとしか言えませんでしたが、今は思いっきり声が出せることが気持ちよく、気楽に楽しく詩吟を続けています。詩吟のことも華洲会のことも知らないことばかりで、また、出張で大阪にいないことも多いのですが、少しでもお役に立てればと考えております。

ご指導、ご鞭撻いただき、勉強してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「広報担当として」

広報部

上野敦



私が詩吟を始めたのは、勤務先が詩吟の教科書を印刷して、川西

豊友支部を見学させていただいたことがきっかけでした。政安先生に教わってまだ三年半ですが、最近はずいぶん

達している実感できるようになりました。コンクールにも出来るだけ参加し、上位入賞を目指して、教室以外では移動中の車の中や、先日は趣味の釣りで日本海の磯に上がった時、大海原に向かって詩吟の練習をしました。今回、広報担当という役割をいただきましたので、釣りの練習も一層腕を磨きたいと思

います。

「愉しさをアピールしたい」

広報部 秋月俊也

このたび、広報部員として華洲会の運営をお手伝いするのになりました。秋月俊也と申します。まだ吟歴も浅く、かつ社会勉強も不十分な私に、伝統ある華洲会の屋台



骨を支えるメンバーにお加え頂くこと、嬉しさと驚きと不安とが入り交じっています。戦力としては甚だ心許なく、先生方にはご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、詩吟の愉しさを少しでもアピールできればと思

います。宜敷お願い致します。

【平成30年度事業方針】

《吟詠文化の継承》

本年は華洲会創立から53年目となりますが、私達は故会主三浦華州先生の意思を継ぎ、次の時代に吟詠を継承してゆかなければなりません。そのために、10年後15年後に思いを寄せ活動しなければなりません。

本部事業

- イ新春錬成会を実施
- ロ昇段試験を年2回実施
- ハ競吟大会の実施
- ニ未来塾等研修会の実施
- ホ吟詠歌謡研修会等の実施

重点課題と目標

- 1 会員増員
 - ① 一人が一人に声かけ
 - ② 一支部一新教場の開設
 - ③ 退会者防止(楽しい教室)
 - ④ 青年部員の活性化
- 2 新指導者育成
 - ① 新教場開設指導者の育成
 - ② 指導者の後継者の養成
- 3 青年部員の活性化
 - ① 青年部員の活動環境整備
- 4 会議の活性化
 - ① 情報や問題点の共有化
 - ② 10年後を視野に論議
 - ③ 論議を深める

華洲未来塾 第1回目

奥山紅雋副会長指導の「発声に繋がる腹式体操」

30年度前期昇段試験

4月30日、平成30年度前期昇段試験を大東市民会館で実施。昇段試験は前期後期と年2回実施されるが、例年前期は受験者が少なく、本年も初段5名、2段2名、3段1名、4段2名と少なかつた。受験者は、緊張の中、指定時間より早く会場に入り、受験吟題を抽選し、会館内にて自己点検し受験に臨んだ。

受験に臨み山口華雋会長は「我が国の国民の他者を思いやる行動は漢詩や論語を学びそれが広まって大和魂として形成されてきた。いま中国は日本に学ばねばとも言われています」と吟詠の効用を説いた。「その意を悟り、その義を樂しむ」ということで詩吟を続けて頂きたいとお願いした。受験生の受験後、講評に立った岡島彩鼓副会長は、受験者が少数でもあり、受験生一人一人のコメントを述べた。

受験生はそれぞれよく学んでいますが①音程は必ず「3」にもどること、②音程「8」は出しにくいですが受験でするので！③アクセントに注意！ただければ！④順番待ち時、足を組まないで！⑤口を大きく開ける⑥吟ずる速度、など

平成30年度予算

収入の部

単位:円

科目	予算額	前年度実績	前年実績 差異	予算編成要因
前期繰越金	1,524,800	1,186,551	338,249	
年会費	2,196,000	2,215,200	△ 19,200	通常会員360人(前年度366人)、内遠隔地会員16人)
臨時会費収入	82,000	142,413	△ 60,413	華洲未来塾の収益
昇段料	20,000	20,700	△ 700	前年度並み
受取利息	200	208	△ 8	預金利息(周年大会積立金)
雑収入	0	20,000	△ 20,000	
収入合計	2,298,200	2,398,521	△ 100,321	
総合計	3,823,000	3,585,072	237,928	

支出の部

単位:円

科目	予算額	前年度実績	前年実績 差異	予算編成要因
会場費	90,000	86,366	3,634	正副会長会、常任理事会、総会
会議費(役員会議)	60,000	53,633	6,367	役員会議費用
旅費交通費	0	0	0	会議以外の交通費実績
通信費	60,000	87,443	△ 27,443	2千円以上の送料・事務局電話代・携帯電話5千円を含む
事務用品費	60,000	92,109	△ 32,109	2000円以上の事務用品・印刷費
慶弔費(設立・記念)	60,000	150,000	△ 90,000	支部開設祝金、青年部招待祝金
慶弔費(華洲会内外)	30,000	0	30,000	本会内冠婚葬祭費
会長渉外費	200,000	160,000	40,000	会長特別渉外費(領収書不要・特別時は別途請求有)
事務局運営費	120,000	120,000	0	事務用品費・通信費のうち1回2千円以下を含む
倉庫賃借料	210,000	206,327	3,673	事務賃借料
研修部+教養部 = 教養指導部	30,000	16,714	13,286	活動費
女性部	20,000	7,185	12,815	活動費
青年部	60,000	10,000	50,000	活動費
広報部	30,000	8,979	21,021	活動費
「華」発行(広報部)	80,000	115,908	△ 35,908	年2回発行 活動費
企画部	30,000	19,790	10,210	活動費
競吟大会補助金	200,000	288,621	△ 88,621	競吟大会補助金
新春錬成大会 補助金	175,000	0	175,000	新春吟詠大会補助金
周年大会積立	500,000	500,000	0	積立金
広告宣伝費(吟詩日本)	20,000	20,000	0	吟詩日本 新年号に役員名簿掲載
備品購入費	100,000	0	100,000	Wデッキ購入
雑費	50,000	117,197	△ 67,197	初穂料等
支出合計	2,185,000	2,060,272	124,728	
繰越金	1,638,000	1,524,800	113,200	

周年大会積立金

単位:円

29年度繰越	2,800,000
30年度新規積立	500,000
30年度末残高	3,300,000

積立金
積立経緯

50周年大会残金	80万円
27年度 積立	70万円
28年度 積立	80万円
29年度 積立	50万円
累計	280万円

日	内容
3/10(日)	府連1部1次
23(土)	東明未来塾13:00
24(日)	青年部大会
12(火)	三浦華洲先生墓参 (没後30年)
2/23(日)	吟道大学
29(火)	華洲未来塾13:00
26(土)	東明未来塾13:00
14(月)	華洲会新春錬成会
31/1(日)	関吟新春吟詠大会
12/9(日)	全国師範代・準師範・指導
24(土)	東明未来塾13:00
11/11(日)	全国新人中間層競吟大会
30(火)	華洲未来塾13:00
21(日)	85周年全国吟詠近畿大会
14(日)	関吟府連1部2部決勝
10/8(月)	華洲会競吟大会
29(土)	東明未来塾13:00
24(月)	華洲会昇段試験9時受付
9/9(日)	東明祭・本部研修会(新教本)
26(日)	関吟地区連2部予選
19(日)	関吟地区連1部予選
8/5(日)	財団近畿大会
31(火)	華洲未来塾13:00
28(土)	東明未来塾13:00
22(日)	師範代昇格試験
15(日)	師範・準師範昇格試験
7/8(日)	大阪府連2部吟士権
10(日)	大阪府連1部吟士権
6/2(土)	総本部定期総会

平成30年度 華洲会・総本部等
競吟・研修等行事日程

平成30年度華洲会役員構成

平成30・31年度 華洲会役員

◇ 支部長及び理事(順不同) ◎印は本部役員

役職名	資格	氏名(雅号)	支部名	担当職
会長	宗 帥	山口華雋	雋詠寺川	
常任相談役	宗 範	深町華燁	燁 吟	
〃	総師範	小野華篁	四条曙	
〃	総師範	大上華鞠	学 園	
〃	総師範	中谷将鳳	勢 多	
〃	総師範	林 華環	指 月	
常任相談役	総師範	種田紅鞠	学 園	監事
常任相談役	総師範	岡島彩鼓	川西大和	監事
常任相談役	高師範	田中尚叡	多田東	
副 会 長	総師範	小寺竜鵬	楠の里	企画部担当
〃	総師範	政安恵豊	川西豊友	女性部担当
〃	総師範	奥山紅雋	雋詠京都	教養指導部担当
〃	高師範	中村尚儒	川西北	事務局担当
副 会 長	高師範	竹本瑞鼓	丸の内中央	広報部担当
副 会 長	上師範	遠藤尚豪	多田東	会計部長
相 談 役	高師範	本田箏勲	野崎観音	
参 与	総師範	町 綏雋	雋詠伊賀	
参 与	総師範	川村将楓	勢 多	
参 与	師 範	坂本充綜	ソレイユ	副事務局長
参 与	師 範	野口箏香	野崎観音	
参 与	師 範	南 桜紅	四条楠公	
参 与	師 範	嶋澤俊雋	雋詠伊賀	
常 任 理 事	師 範	中道篁華	四条曙	
〃	高師範	中村尚瑛	川西北	事務局長
〃	師 範	高橋箏瑛	野崎観音	教養指導部長
〃	上師範	森 蘭豊	清和台	
〃	高師範	吉田鳳襄	鳳吟大江	
〃	高師範	吉田泉豊	川西豊友	女性部長
〃	師 範	藤原克晟	京阪楠葉	企画部長
〃	高師範	寺田将暉	鳳吟大江	
〃	上師範	高谷兼妙	雋詠京都	
〃	師 範	園部奎雋	雋詠寺川	
〃	師 範	山下心鼓	丸の内中央	広報部長
〃	師 範	今井彩黎	川西大和	
常 任 理 事	師 範	東 燁光	燁 吟	
常 任 理 事	師範代	中野充瑤	ソレイユ	
理 事	師範代	嶋崎瑛籙	野崎観音	青年部長

支 部 名	資 格	氏名(雅号)	備 考
四条曙	師 範	下美華冏	支部長
	師 範	◎中道篁華	妙見分会講師
楠の里	総師範	◎小寺竜鵬	支部長
四条楠公	総師範	◎種田紅鞠	支部講師
	師 範	◎南 桜紅	支部長
雋詠寺川	総師範	◎奥山紅雋	支部長 奥山分会講師
	師 範	◎園部奎雋	高槻分会講師
	師 範	末延祥雋	高知分会講師
雋詠京都	総師範	◎奥山紅雋	京都支部講師
	上師範	◎高谷兼妙	高谷分会講師
	準師範	市木紅鐘	支部長
雋詠伊賀	総師範	◎町 綏雋	火曜分会講師
	師 範	岡森鵬雋	火曜分会講師
	師 範	◎嶋澤俊雋	支部長 嶋澤分会講師
京阪楠葉	師 範	◎藤原克晟	支部長 支部講師
	師 範	辻 亮泉	宇治木幡分会講師
学 園	総師範	◎種田紅鞠	支部長 南津の辺分会講師
野崎観音	高師範	◎本田箏勲	支部長
	師 範	◎高橋箏瑛	春秋分会講師
勢 多	高師範	◎寺田将暉	支部長 将暉分会講師
	総師範	◎川村将楓	将楓分会講師
鳳吟大江	高師範	◎吉田鳳襄	支部長
燁 吟	師 範	◎東 燁光	支部長
指 月	総師範	◎林 華環	支部講師
清和台	上師範	◎森 蘭豊	支部長 支部講師
川西豊友	高師範	◎吉田泉豊	支部長 豊友こども分会講師
	高師範	◎田中尚叡	支部講師
	準師範	辻 總叡	支部長
	上師範	◎遠藤尚豪	秋桜分会講師
	準師範	金子尚恭	鼓友池田分会長
	師範代	仲元幹雄	秋桜分会長
	師範代	山西千恵子	みどり会分会長
	宮里義一	紫陽花会分会長	
	富田英孝	OKR分会長	
丸の内中央	高師範	◎竹本瑞鼓	支部講師
	師 範	竹内峰鼓	明峰分会講師
	師 範	◎山下心鼓	支部長
川西北	高師範	◎中村尚儒	支部講師
	高師範	◎中村尚瑛	木曜分会講師
	高師範	永井尚麗	子供きんたクラブ分会講師
川西大和		小島儒岳	支部長
	総師範	◎岡島彩鼓	支部講師
	上師範	上阪彩彪	支部長
ソレイユ	師 範	◎今井彩黎	甲山・花の金曜・楽しい・てるてる分会講師
	師 範	◎坂本充綜	支部長 支部講師・火曜分会講師
	師範代	◎中野充瑤	木曜分会講師

太字は平成30年度新任

◎印は常任理事以上で分会講師を兼ねる各部担当役員

【各部担当役員】

- ☆事務局
 - 事務局長 〓 中村尚瑛
 - 副事務局長 〓 坂本充綜
 - 事務局長 〓 岡部豪洵
 - 岡 虹志・荒川一聡
- ☆会計部
 - 部長 〓 遠藤尚豪
 - 副部長 〓 片山豪香
- ☆教養指導部
 - 部長 〓 高橋箏瑛
 - 副部長 〓 高谷兼妙
 - 園部奎雋
- ☆企画部
 - 部長 〓 藤原克晟
 - 部員 〓 箱田儒海
- ☆女性部
 - 部長 〓 吉田泉豊
 - 部員 〓 谷 叡篤・上野敦
 - 秋月俊也
- ☆青年部
 - 部長 〓 嶋崎瑛籙
 - 副部長 〓 今井彩黎
 - 部員 〓 堀 彩刻
 - 瓦林翔太・上野敦

「楠公さん」めぐり熱い議論

神戸「湊川神社」で創祀御沙汰

150年記念シンポに参加

南北朝時代の武将、楠木正成を祭る湊川神社の創建を明治元年4月に明治天皇が命じて今年(平成30年)で150年の節目を迎えるのを記念し、同神社、神能殿で4月21日、「創祀御沙汰150年記念シンポジウム」が開かれ、丸の内中央支部竹本瑞鼓・中根達博・中西彰が聴講に赴いた。

パネルディスカッションでは「楠公さん」を巡り厚い議論が繰り広げられ、来場者300人余りが真剣な表情で聞き入っていた。シンポでは、冒頭、楠公ゆかりの地、大阪府河内長野市の島田智明市長があいさつ。パネルディスカッションでは西郷南洲顕彰館の前館長、高柳毅氏が、西郷隆盛が楠公について読んだ漢詩や明治10年の西南戦争直前に楠公像に拝礼したエピソードを紹介。「(隆盛は)大義のために戦った楠公に自身を重ねていたのではないかと指摘した。また、同神社の垣田宗彦宮司は、楠公が歌舞伎や浄瑠璃

西郷南洲の漢詩、楠公への慕情・楠公崇敬の念 平成22年夏に発見 明治7〜8年頃の作

王家蕪棘古猶如今

遺恨千秋湊川灣

願化青蚩生墓畔

追隨香骨快吾心

王家蕪棘せいきよく古猶(なほ)今の如し 遺恨(いごん)千秋(せんしゅう)湊川(みなとがわ)の灣(をり) 願(ねが)わくば青蚩(せいし)と化(か)し墓(はか)に生(な)る 誓(ちか)いこぼし香骨(かおく)が心(こころ)に快(よろこ)ばしめ 意解(いげ)・王室(わうしつ)に雑草(ざくそう)(俗臣(じやくしん)) がはびこつてゐるは、楠公の昔もなお今のようであつた。

一坂氏は「私利私欲なき至誠純忠の楠公精神は、後世の人々の尊崇と憧憬を集め、維新の志士達の精神的支柱となり、特に明治維新と言う転換期に大きな影響を与えました。功利功業の世にあつて「公」を現代に問うきつかけとなつたのではないかと指摘。



懐(なつか)しき君(きみ)が一死(いつし)七生(ななせい)いつしひちせい(の)語(ことば) 此(こゝ)の忠魂(ちゆうこん)を抱(いだ)くも今在(いま)ありや無(な)しや

児島高德行宮題詩

西郷隆盛 作

吁嗟雖莫范蠡功

先命投機志氣雄

十字血痕花色在

龍顏一笑認孤忠

御心を安んじ奉つたのである。

意解・楠公の奇抜な戦法、優れたはかりごとは、常人には企てが出来ないものだ。自ら王事に勤めたのは、これぞ孔孟の教えを学んだ真の儒者にほかならない。公が自刃の才、弟正季と誓った「一たび死んでも七たび生き返り、賊を滅ぼそう」との言葉を懐うにつけ、このような立派な忠誠心を抱くものが、今の世にいるかどうか疑わしいものだ。

莫道風雲際會難

金剛山下臥龍蟠

天皇一夜蒙塵夢

南北繁邊御枕安

莫道(な)うななれ風雲(ふうぐん)際會(さいかい)難(がた)し 金剛(こんがう)山下(やま)臥龍(ふりりゆう)蟠(わだかまる) 天皇(てんわう)一夜(いつや)蒙塵(もうじん)夢(ゆめ) 南北(なんぼく)繁邊(はんぺん)御枕(ごまくら)安(やす)し 竜(りゆう)が雲(うん)を得(え)る、虎(こ)が風(かぜ)を得(え)る ように明主(めいしゅ)と賢臣(けんしん)が出会(い)うのは難(がた)しいなどと言(い)つてはいけ ない。

金剛山の麓に竜が伏しかくれていたが、後醍醐天皇が笠置山に逃れたある夜、楠木の繁った枝の下で眠る夢をご覧になってから、臥竜すなわち楠公は召し出され、天皇の

情報

トライしませんか!!

検定「楠木正成考・正行考」

*関西吟詩教本の中で楠公を扱った漢詩が多数あります。

漢詩作詞の背景理解の一助として検定にチャレンジしませんか

日時：平成30年8月5日 13時〜15時

試験会場：

湊川神社(神戸市中央区)

ノバティホール(河内長野市)

四条啜学園大学(四条畷市)

神戸山手大学(神戸市中央区)

産経新聞大阪本社(大阪市難波区)

料金：3500円

主催：楠木正成考・正行考

検定実行委員会

(湊川神社・観心寺・河内長野市・産経新聞社ほか)

【漢詩の効用・美びを實踐に】

長壽之詩 宮崎東明

白髮漸交還曆壽

古稀獲得更欣然

齡昇喜米依天惠

遂是歡迎百歲年

「シニアが、誕生月に全員で合吟し祝い合う！」

丸の内中央支部 山下 心鼓
会員拡大と自身の成長へのきっかけで老人ホームを訪問し続けて16年になります。

此処で「長寿の詩を皆で詠います」この宮崎東明先生の長寿の詩は魔力を持っていきます。この詩は正に「老人讃歌であり長寿応援歌」です。60歳70歳80歳台すべての人に該当し、かつ「次の年代まで元気だ」と言う願いが込められています。

月ごとの集會時に年齢にかかわらず、当月生まれの方を名簿に基づき、名前を披露し全員で合吟。終了後、拍手と「おめでとうの」一言を掛ける。これだけで本人の気持ちは

「バツ」と明るくなります。何故そんなことが嬉しいのか高齢になると誕生日を覚えているのは本人だけと言うのが多くなって、他人から祝ってもらおう機会が多い方が気持ち明るくなります。「該当月」の方の誕生祝いなので老若男女とも「あなたも私と同じ月」と話題が増えて行きます。

東明先生の漢詩に埋め込まれた「遂に是 歡迎迎う百歳の年」の言葉がみんなの生きる目標として、はつきりと明示して、それぞれに判るからには無いでしょうか。

【漢詩の広場】

早春景

燐吟支部 深町 華燁

庚 韻

新粧天地雪全晴

冬去春来聽早鶯

幽艶溪梅如墨画

南枝花発動吟情

新粧の天地雪 全く晴れ

冬去り 春来り 早鶯を聴く

幽艶 溪梅 墨画の如く

南枝花 発いて 吟情 動く

首夏郊村

燐吟支部 深町 華燁

微 韻

紫藤紅躑緑将肥

新樹成陰芳屋困

首夏郊村山鳥下

薰風万里遠山微

紫藤 紅躑 緑将に肥ゆ

新樹 陰を成して 芳屋を困み

首夏の 郊村 山鳥 下り

薰風 万里 遠山 微なり

百人一首・万葉集の漢詩訳に挑戦 ②
ソレイユ支部 坂本亮綜

万葉集より

日本の古典「万葉集」
坂口由美子 著

◆近江荒都；；；楽浪

の志賀の唐崎

作者：柿本人麻呂

楽浪の

志賀の唐崎

幸くあれど

大宮人の

舟待ちつつ

【通釈】さざなみの志賀の唐崎は、昔のまま変わらずにあるけれど、あのころ大宮人が遊んだ舟は、いくらは待っても、再び見ることはできないのだ。

楽浪の

志賀の大わだ

淀むとも

昔の人に

またも遭はめやも

【通釈】さざなみの志賀の大きな入り江の、湖水のまにまに淀んで、昔のここに船を寄せた昔の人に再び逢う事ができな

※この二首、「近江の荒れたる都を過る時に、柿

本人麻呂が作る歌といいう長歌に添えられた反歌。

壬申の乱で近江大津の宮は焼亡した。天智天皇の造営した近江朝の莊厳な宮殿が廢墟と化した。これを、自然の姿は変わらぬのに、と嘆いたのであ

【漢詩訳】

「大津京懷古」 韻：陽

有情湖上近江郷

會照旧都豈可忘

幻影舟遊渾一夢

待君不見割愁腸

情有り湖上近江の郷

曾て照らす旧都豈忘れ

可けんや

幻影 舟遊 渾一夢

君待てど見えず愁腸を割く

400人の大台をキープするも有料会員減

支部名	宗帥	宗範	総師	高師	上師	師範	準師	師代	一般	会費会員	学幼少	合計
脩詠寺川	1		1			4	2	1	24	33	3	36
脩詠京都					1	1	1	2	12	17	2	19
脩詠伊賀			1		1	3	2	6	6	19		19
京阪楠葉						3	1	2	12	18		18
燐吟		1				1	6		12	20		20
指月			1					1	1	3		3
勢多			2	1		1		1	4	9	4	13
鳳吟大江				1	1	1	3	1	11	18	5	23
四条燗			1			2	1	2	5	11		11
四条楠公						2	1	1	5	9		9
楠の里			1			1		1	6	9		9
学園			2					2	4	8		8
野崎観音				1		3	8		6	18	2	20
清和台					1			4	6	11	9	20
多田東				1	1	1	3	6	31	43	2	45
川西北				3	1	1	1	2	16	24	5	29
丸の内中央				1		2	2	3	13	21	3	24
川西豊友			1	1				4	11	17	1	18
川西大和			1		1	1	2	1	31	37	2	39
ソレイユ						2		3	12	17		17
合計	1	1	11	9	7	29	33	43	228	362	38	400
29年度会	1	0	12	10	9	30	34	46	233	375	31	406
増減	0	1	△1	△1	△2	△1	△1	△3	△5	△13	7	△6

平成29年度末の会員数は対前年マイナス6名の減にとどまった。しかし、会員の構成を見ると、幼少年のプラス7名に対し、残念ながら、会費の支払いがある有料会員数は対前年13名減であった。

長期的なスパンでみてみよう。幼少年は10年間で17人の増、有料会員は102名の減。この減の中で一般会員の減54名と半数を占めている。得の主力は吟歴が浅い一般会員よりも、吟詠の面白味を熟知している師範代・準師範・師範・師範の中核と思われ、平成20年で合計144名、平成30年で105名となっている。

東明末 来塾・華 洲未塾の開講で、吟詠技術の習得、指導技術の獲得、PRのノウハウ開示など多彩な学習項目をそろえ会員獲得むけ意欲喚起を図っている。中核部分が会員獲得に覚醒することを期待したい。

	宗帥	宗範	総師範	高師範	上師範	師範	準師範	師範代	一般	会費会員	学幼少	合計
平成30年	1	1	11	9	7	29	33	43	228	362	38	400
前5年比	1	1	-4	0	-3	-6	-5	-11	-4	-31	6	-25
平成25年			15	9	10	35	38	54	232	393	32	425
前5年比	0	0	6	-3	-7	-5	-8	-4	-50	-71	11	-60
平成20年			9	12	17	40	46	58	282	464	21	485

【新入会員】入会順 (10月〜30年3月)
 ＊再入会 ＊子供
 石元美憂※(鳳吟大江)
 石元辰弥※(鳳吟大江)
 西村喜美子※(京阪楠葉)
 辻 正子※(京阪楠葉)
 奥山英夫(脩詠寺川)
 宮本昂平(脩詠寺川)
 徳永憲子(燐吟)
 宗像 達夫(燐吟)
 嶋崎雄仁※(野崎観音)

吟詠川柳 集計できました
 広報部
 力作ぞろいで会員の皆さんの素養が窺えます。悩みもね。投票は12支部・分会から99人の方に297票頂きました。

- 1位 多田東支部 鼓友池田分会 主いわく いびきは8本 吟5本 NO 39 20票
- 2位 多田東支部 腹おさえ 腹式すれど 声は出す NO 36 19票
- 3位 多田東支部 鼓友池田分会 NO 7 18票
- 4位 脩詠寺川高知 末延喜美子 NO 23 15票
- 4位 吟詠は いくらやっても 良くわからん NO 27 15票
- 4位 多田東支部 遠藤尚豪 NO 27 15票

我が吟は 自己満足の 他はなし
 多田東支部 谷 和代

表彰は、秋の競吟大会当日に行います。
 ※「川柳に我が身置き換え 笑みこぼれ」
 吟詠川柳事務局 瑞鼓

【編集後記】
 新体制、山下広報部長スタートです。また、青年部から広報部に事務局に参画。フレッシュマンの支援が期待できます。広報は会員の気持ちを繋ぐスペースです。どんどん意見をお寄せください。皆さんの熱気あふれる広報に。「瑞」

仰不レ愧ニ於天一、
 俯不レ作ニ於人一
 ＊孟子の説く、君子の三樂の二番目。(三樂は父母が健在で兄弟も無事であること。やましい点が無くて天にも人にも恥じることがないこと。天下の英才を教育すること。)

一方では天に対して恥じることがなく、また一方では人に対して恥じることがない。
 一方では天に対して恥
 仰不レ愧ニ於天一、
 俯不レ作ニ於人一